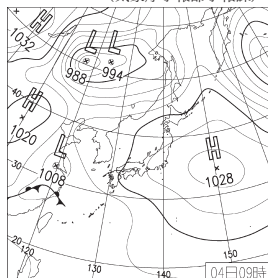


# 日々の天気図

— No. 184

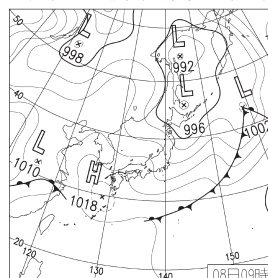
## 2017年 5月

- ・5日、沖縄で短時間の大雨で増水した川に行業客多数取り残される。
- ・8日、強風のため東北地方で山林火災や交通障害など、家屋被害も。
- ・19～22日、各地で気温が上昇し、熱中症による救急搬送が多発。
- ・東京、松江、西郷、姫路で5月の月降水量の少ない方から1位更新。  
(気象庁予報部予報課)



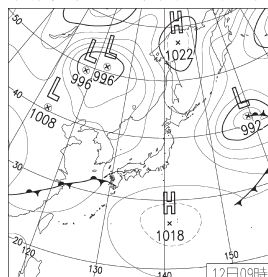
4日(木)北海道で真夏日

日本の東の高気圧から南風が入り、奄美～西日本南岸は曇りや雨、そのほかは晴れ。山陰～北陸・北日本で気温上がり北海道で真夏日の地点も。室蘭市サクラ満開。熊本県で震度4。



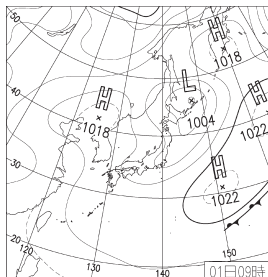
8日(月)東北で山火事相次ぐ

高気圧に覆われ広く晴れて関東中心に真夏日。寒気伴った低気圧の影響で北海道は雨や雷。釧路でひょう。関東～東北で強風・突風被害。最大風速青森県八戸21.6 m/s。各地で黄砂。



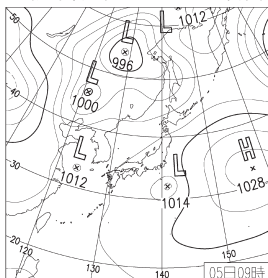
12日(金)九州南部で猛烈な雨

鹿児島県中甕107.5 mm/1hで史上1位。日降水量も326.5 mmなど九州各地で5月1位の大雨。華南から九州に停滞する前線に低気圧が発生。夜には九州の西へと進み東日本で雨。



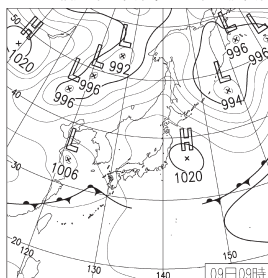
1日(月)東日本各地で雷雨

オホーツク海を低気圧東進し北海道は一部で雨。寒気を伴った気圧の谷通過で東日本は大気の状態が不安定となり広範囲で雨や雷。その他は概ね晴れ。帯広市エゾヤマザクラ開花。



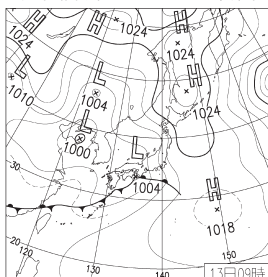
5日(金)立夏、全国各地で夏日

気圧の谷や湿った空気の影響で沖縄～九州で曇りや雨のほかは日中は概ね晴れ。気温は全国的に平年より高めで約5割の地点で夏日。エゾヤマザクラ網走市で開花。旭川市で満開。



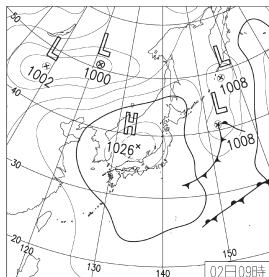
9日(火)西から下り坂

気圧の谷近づき九州から降り出し非常に激しい雨も。夜には関東まで雨。沖縄・奄美も雨。東北は晴れのち曇り。北海道は晴れて最高気温が7月並の所も。稚内市エゾヤマザクラ開花。



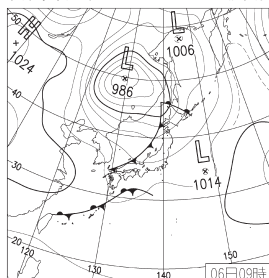
13日(土)沖縄・奄美梅雨入り発表

南岸低気圧と前線の影響で沖縄～東北は雨。鹿児島県中之島で50 mm/1h。北海道は概ね曇りで最高気温は3月下旬～4月並。平年より6～10°C低い所も。西日本は午後次第に晴れ。



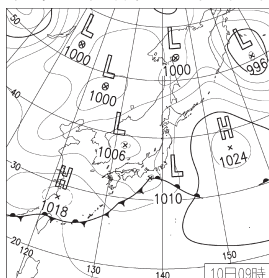
2日(火)桜島が噴火

噴煙の高さは火口から4000 mに。気圧の谷の影響を受けた沖縄～九州で曇りのほかは移動性高気圧に覆われ。室蘭市サクラ(ソメイヨシノ)開花。帯広市でエゾヤマザクラ満開。



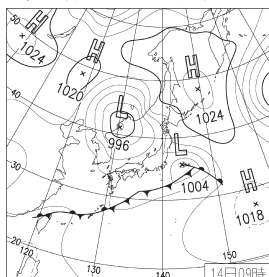
6日(土)西日本で黄砂を観測

南西諸島と日本海の前線がそれぞれ東進。沖縄県伊原間41.5 mm/1hの激しい雨。東海の一部や関東を除き西～北日本も雨。西日本各地で黄砂を観測。1967年以降最も遅い観測初日。



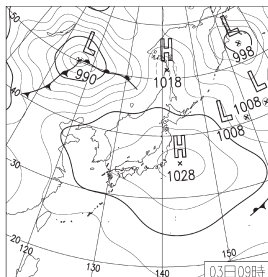
10日(水)全国的に曇りや雨

日本海と本州南岸を低気圧や前線が東進し、北海道の一部を除き全国的に曇りや雨。北海道では日中晴れて最高気温遠軽26.1°Cなど7～8月並。平年差10°C以上の所も。



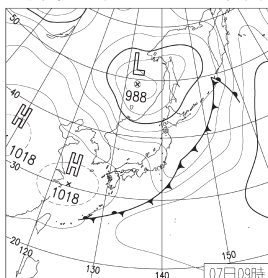
14日(日)釧路市でエゾヤマザクラ開花

梅雨前線により沖縄は曇りや雨。西日本～北陸・東北日本海側は晴れて最高気温は6～7月上旬並。湿った東風で関東や北日本太平洋側は曇りや雨で気温上がらず3月下旬並の所も。



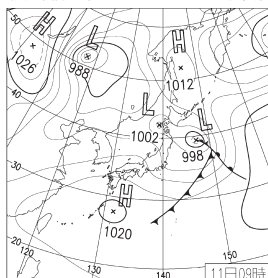
3日(水)北海道は今年初の夏日

全国的に高気圧に覆われて概ね晴れ。沖縄本島～西日本太平洋側は湿った東風で曇りや雨。北海道は今年初めて所々で夏日に。札幌市サクラ満開。旭川市エゾヤマザクラ開花。



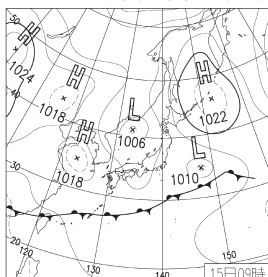
7日(日)西～北日本で黄砂観測

視程は稚内4 kmなど北海道と九州で10 km未満。高気圧に覆われて概ね晴れたが沖縄・奄美や北海道は雨。関東で雷雨の所も。北日本各地で強風。網走市でエゾヤマザクラ満開。



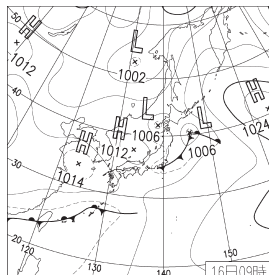
11日(木)今年初の冬日なし

低気圧の影響で北陸～北日本は曇りや雨、その他は概ね晴れ。全国の最低気温は北海道浜頓別2.3°C。山形県小国で最大瞬間風速27.8 m/s。稚内市エゾヤマザクラ満開。熊本県で震度4。

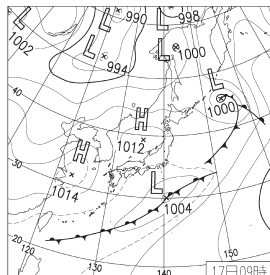


15日(月)動きの遅い寒冷低気圧

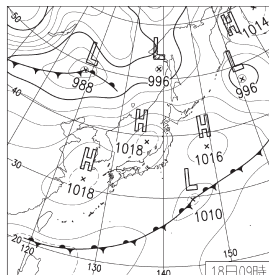
沖縄は梅雨前線が停滞し各地激しい雨。西表島50 mm/1h。那覇で海上竜巻を観測。日本海の寒冷低気圧がゆっくり接近し北陸～北日本は雨や雷雨。北海道白老で日降水量127.5 mm。



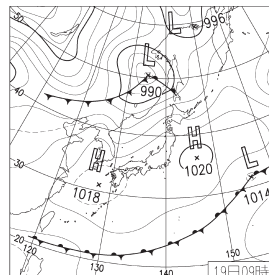
**16日(火) 沖縄で非常に激しい雨**  
本州付近は晴れたが、沖縄は前線、北海道は寒気を伴った低気圧による雨や雷。沖縄本島北端の奥で60 mm/1hで5月1位、日降水量206 mmなど、沖縄県内は各地で激しい雨。



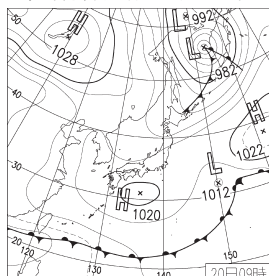
**17日(水) 警報級の可能性 等開始**  
5日先までの「警報級の可能性」と警報等の「危険度を色分けした時系列」提供開始。梅雨入り発表後、沖縄・奄美は前線の影響で曇りや雨、関東も低気圧や上空寒気で天気ぐずつく。



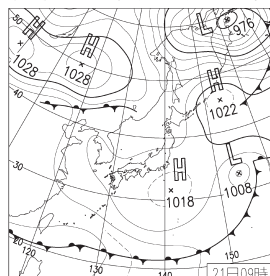
**18日(木) 今春最後のサクラ満開**  
帯状高気圧に覆われほぼ全国的に晴れ。関東付近は上空の寒気で大気の状態不安定となり雨や雷。北海道は真夏並の最高気温で平年差10℃以上の所も。釧路市エゾヤマザクラ満開。



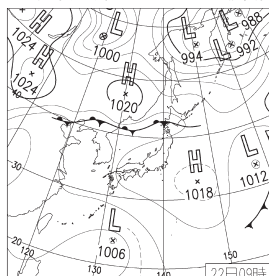
**19日(金) 全国的に晴れ**  
先島諸島で曇りや雨のほかは高気圧に覆われ全国的に晴れ。各地昇温し最高気温は北海道で平年差10~15℃で真夏日の所も。北海道は気圧の傾き大きく最大瞬間風速北32.4m/s。



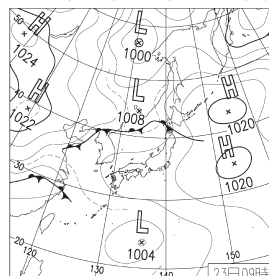
**20日(土) 全国的に晴れて高温**  
沖縄・奄美は前線の影響で雨や曇り。西~北日本は高気圧に覆われ晴れ。最高気温は大分県日田33.1℃、北海道13地点など全国165地点で真夏日。北海道帯広泉31℃など5月1位の所も。



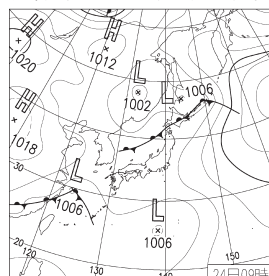
**21日(日) 今年全国初の猛暑日**  
雨となった沖縄・奄美を除き高気圧に覆われ全国的に晴れて西日本~東北の187地点で真夏日。最高気温は、群馬県館林35.3℃で今年全国初の猛暑日。東日本を中心に5月1位の所も。



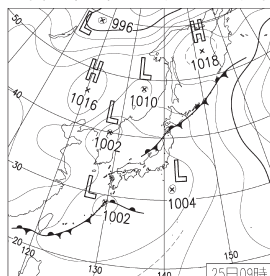
**22日(月) スモッグ気象情報発表**  
関東は4日連続。高気圧は日本の東から西に張り出す。沖縄・奄美や北海道で曇りや雨のほかは概ね晴れ。東北以南の128地点で真夏日。最高気温は福島県石川34℃など東北で5月1位。



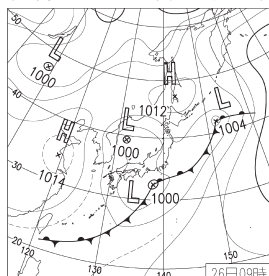
**23日(火) 晴天・高温6日目**  
沖縄~東北は気圧の尾根に覆われ概ね晴れ。低気圧接近で北海道は曇りや雨。低気圧の影響で東京都母島は日降水量185.5mmなど5月1位。東日本~東北を中心に最高気温7月並に。



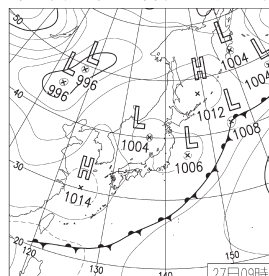
**24日(水) 暑さおさまる**  
気圧の谷が接近し全国的に曇りや雨。南西諸島は前線・低気圧が接近し夜は所々で激しい雨や雷。沖縄県石垣島47.5mm/1h。最高気温は全国的に前日より6~12℃下が4月並の所も。



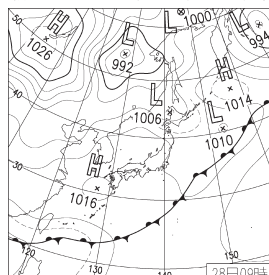
**25日(木) 暖かい朝続く**  
日本海側各地で午後を中心に晴れたほかは前線や気圧の谷の影響で曇りや雨。最低気温は全国的に平年より高く、最高気温は甲信など20℃未満。那覇市リュウキュウアブラゼミ初鳴。



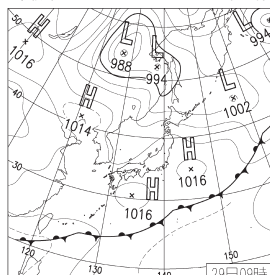
**26日(金) 東・北日本は雨**  
西日本は晴れ。東海~関東は前線や低気圧による雨。北陸~東北は日本海を東進する寒気を伴った低気圧による雨や雷。関東~東北太平洋側の最高気温は4月上中旬並と上がらず。



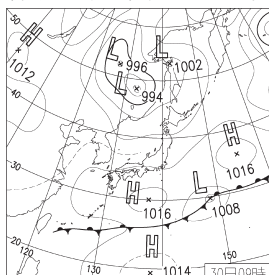
**27日(土) 西日本で朝は冷え込む**  
最低気温は4月並。西日本と東日本太平洋側では日中は概ね晴れて夏日。低気圧や気圧の谷の影響を受けた北陸・関東北部~北日本や前線の影響を受けた沖縄・奄美は曇りや雨。



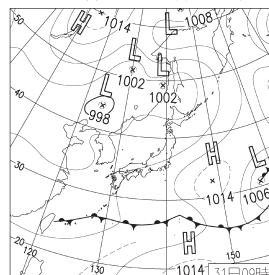
**28日(日) 西日本は冷え込み続く**  
沖縄・奄美は梅雨前線の雨雲かかる。上空に寒気を伴う低気圧の影響で北海道中心に曇りや雨。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れ。沖縄~西日本は最低気温が4月並の所も。



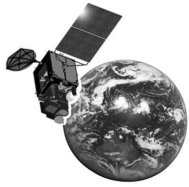
**29日(月) 全国的に気温高め**  
高気圧に覆われ九州~東北はほぼ快晴。北海道は明け方まで雨残ったが次第に晴れ。沖縄・奄美は前線の影響で曇りや雨。西日本中心に気温上がり最高気温は九州で5月1位の所も。



**30日(火) 関東以西で高温**  
東北部や沖縄・奄美で曇りや雨のほかは高気圧に覆われ晴れて気温上昇。最高気温は鳥根県津和野35.1℃の猛暑日など西~東日本で5月1位の所多数。全国約3割277地点で真夏日。

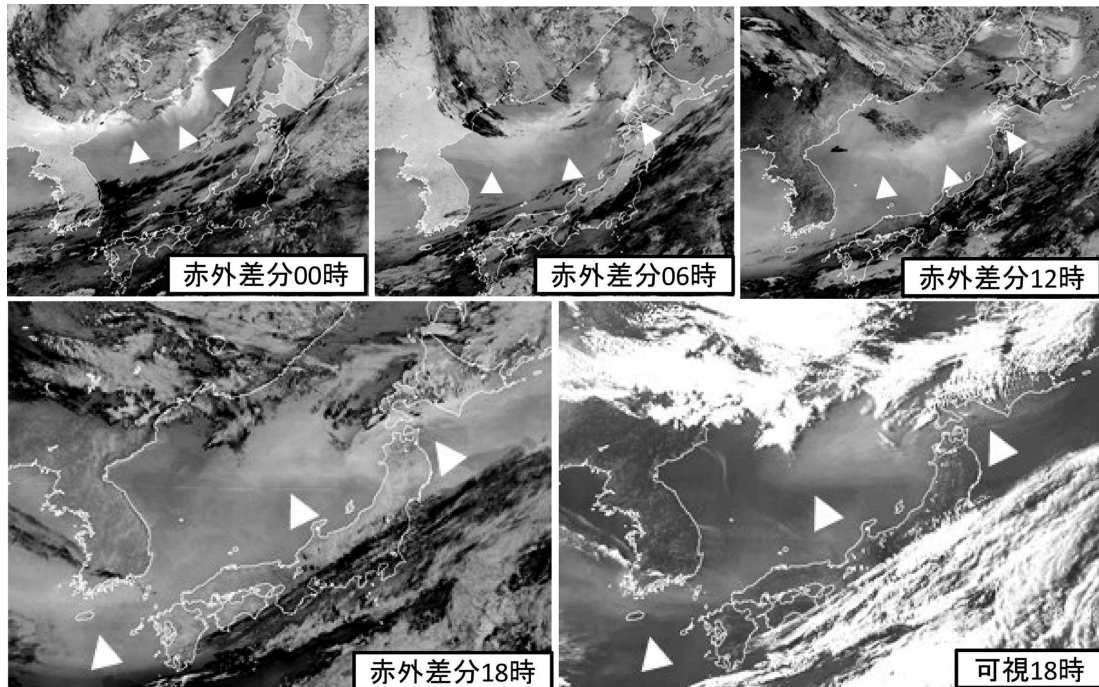


**31日(水) 西日本~東北で雷雨**  
前線の影響で沖縄は一部で激しい雨。上空寒気により西日本~東北は大気の状態不安定となり各地激しい雷雨。長野県聖高原49mm/1hで史上1位。新潟・山形県で最高気温5月1位の所も。



## 今月のひまわり画像—2017年5月

### 大規模な黄砂



第1図 2017年5月7日00時～18時（日本時間）の6時間毎の日本付近における赤外差分画像及び18時の可視画像（右下）。記号△は、黄砂の領域先端を示す。

2017年5月7日は朝から九州～北海道の広域で、黄砂が観測され、今年初の観測となったところが多かった。同日00時～18時30分の間に、日本では46地点の気象官署で黄砂が観測された。40地点以上の観測は2011年5月2日以来6年ぶりとなった。

第1図は7日00時～18時（日本時間）の日本付近における赤外差分画像（赤外1画像（波長：10.4 $\mu\text{m}$ ）の輝度温度から赤外2画像（波長：12.4 $\mu\text{m}$ ）の輝度温度を差し引いて画像化。以下、差分画像）と18時の可視画像である。中国大陸から日本付近にかけて広く見られる鮮明な白色の領域が黄砂を含んでいると推測される。

差分画像では、赤外1画像の輝度温度から赤外2画像のそれを引いた差分値が正の値となる場合は黒く、負の値となる場合は白く表示している。黄砂は、火山灰と同様に、成分中の石英などの鉱物からの放射効果により赤外輝度温度の差がわずかに負の値となり、差分画像では白く表される。また大気中の黄砂に含まれる二酸化ケイ素の濃度が高いほど、差分画像でも可視

画像でも白く見える。ゴビ砂漠などから巻き上げられた黄砂は、日本付近に到達する頃には拡散または降下して薄くなり、衛星画像での識別が困難になる場合があるが、7日は18時の差分画像、可視画像共に灰色～白色の領域が東シナ海～日本海～北海道にかけて拡がっているのがはっきりと確認でき、大量の黄砂が運ばれてきている状況がわかる。また衛星画像で黄砂が確認されても、上空に浮遊しているだけで地上には影響があまり見られない場合もあるが、今回の黄砂は日本に到達する前の同月4～5日に北京で深刻な被害をもたらした後、大陸にある低気圧の影響で強い西寄りの風に乗って7日にかけて日本付近へ飛来した。そして東シナ海から張り出した高気圧による下降流の影響で地上に達し易くなったと思われる。

黄砂が地上に達した場合、視程（水平方向に見通しが利く距離）が低下することがあり、交通への支障や日常生活に影響を及ぼすことがあるので注意が必要である。

（気象庁予報部予報課 河野麻由可）